2023年2月26日　朝 礼 拝 順 序 (午 前 10 時 半)　(№9)

司式　杉山昌樹牧師

前　奏　奏楽　豊島慶子姉

開 会 招 詞　歴代誌上16章34－36節

＊ 賛 美 歌　2:1（ソングシート）

1. 主のみいつとみさかえとを　こえのかぎりたたえて、またき愛とひくきこころ

御座(みざ)にそなえひれふす。アーメン

＊ 開 会 祈 祷

罪 の 告 白　祈祷書2　罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。　主イエス・キリストの御名によって。アーメン。　(詩編51)

罪の赦しの宣言

十　戒　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊ 賛 美 歌　２：２（ソングシート）

2. ゆだねまつるわが重荷を主はかわりて負いたもう　なやみおおき世の旅路も

主のいませばやすけし。　アーメン

公 同 の 祈 祷　5　ニケア信条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。
我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアよ

り受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。アーメン。

献　　金　　（黒）教会活動（赤）新潟伝道所　　70

今献ぐるそなえものを　主よ　清めて受けたまえ　アーメン

聖　書　朗　読　　申命記8編1－10節（旧約聖書294頁）

マタイ4章1－11節（新約聖書4頁）

説　教・祈　祷　「新しい歩みのために」杉山昌樹牧師

＊ 賛　美　歌　４２:１－２

1. み恵み豊けき　主の手に引かれて、この世の旅路を　歩むぞうれしき。
(おりかえし)妙なる御恵み日に日に受けつつ、み跡を行くこそこよなき幸なれ。

2. 寂しき野辺にも、　賑わう里にも、主ともにいまして　我をぞ導く。

(おりかえし) アーメン

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　６４

みめぐみあふるる　父、み子、みたまの　ひとりのみ神に　みさかえつきざれ。アーメン

＊ 祝　　祷

後　　奏　　(黙祷)

報　　告 司雨宮信長老・受付古澤純一長老（次週：古澤兵庫・雨宮信長老）

本日　受付　１階：藤井牧子・大日南隆夫執事　２階：大日南信也執事　／ZOOMホスト・録音：森永翔馬

次週　受付　１階：藤井牧子・佐藤紀子執事　２階：森永美保執事　／ZOOMホスト・録音：大日南信也

マタイ4：1－11「新しい歩みのために」

私たちのために

今日の聖書は有名な誘惑の個所で実は、誘惑ということでは今年の1月にもルカによる福音書から説教でお話ししています。そこでもまた、イエス様が神の子であることが決定的に重要でした。同様に、今日のマタイにおいてもやはりイエス様が神の子らしくあるということがカギとなっています。それが私たちにとってかなり切実なことです。なぜなら、わたしたちがこうして教会に集まっている、私たちが神の子とされている事実を支えるのが、イエス様がまず神の子であるという事実によっているからです。今日の所で、イエス様が神の子として何をしてくださったのか、そのことを改めて一緒に確かめてみたいのです。

神の子として－そして私たちも

ところでこの個所は一つ前のイエス様の洗礼から続いています。そこですでに決定的なことがおきていました。いずれも洗礼のすぐ後のことです。一つは天が開いて、聖霊が鳩のように下ってくるのをイエス様ご自身が見た、という出来事です。もう一つは、天から「これは私の愛する子、私の心に適うもの」という声が響き渡ったという出来事でした。これがイエス様の基本的な立場です。それは一言で言えば「私の愛する子」すなわち、神様の愛する独り子である、ということです。しかし、それは、ただ、イエス様がそうである、というだけでは終わらないのです。なぜなら、このあとイエス様は、まさに聖霊に導かれて、荒れ野へと連れていかれ、試みられるのですし、その際、四十日、四十夜の断食があり、そこでイエス様が誘惑に対して、応えられる聖書の言葉もまた、申命記のものであることなどを考えあわせますと、この荒れ野の誘惑は、ただ、イエス様が神の子であることを示すにとどまらないのです。むしろ、イスラエルの民が成し遂げられなかったこと、地上で神様に忠実に歩むこと、それをイエス様が、私たちに代わって成し遂げようとされている、私たちを代表してそれをしようとしてくださっている、そのようにこのところを読めるのです。まさに私たちが、神様の愛する子となるために、イエス様はここで荒れ野へとひかれていくのです。

決定的な第一の誘惑

そしてこのところで決定的に大切なのはやはり第一の誘惑ではないか、と私は見ています。今日の２節では四十日、四十夜の断食の後で、空腹を覚えられた、ということがあえて書いてあります。マタイはイエス様の空腹を強調します。そして、そのタイミングで誘惑するもの、後の所でははっきりと悪魔と書いてありますけれども、その悪魔が最初の言葉を発しています。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうか」ここでは明らかに、神の子らしいとはどういうことか、が問われています。悪魔は、神の子なら、力をふるったらどうか、と誘っているように見えます。しかし、イエス様は、はっきりとそれを断っています。その際に、聖書の言葉を使って答えます。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる、と書いてある」。これは、旧約聖書申命記８章３節の言葉です。ここでは、人がパンで養われること自体は否定されていません。しかし、まさにパンだけではない、ということが言われています。しかし、では、この神の口から出る、一つ一つの言葉で生きる、とはもっと具体的には何のことでしょうか。実はこのことをはっきりさせるためには、元の申命記の言葉を読むのがよいのです。そこで、今日は特に申命記８章１節から3節までを改めて読んでみます。

律法は生きている

申8:1 今日、わたしが命じる戒めをすべて忠実に守りなさい。そうすれば、あなたたちは命を得、その数は増え、主が先祖に誓われた土地に入って、それを取ることができる。8:2 あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた。8:3 主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。

この言葉の示すところははっきりとしています。神様は明らかに、試みの中で民に一つの事実を体験

させたかったのです。それは、神様の言葉によって生きていく、という体験です。その場合に神様の言葉とは、1節にありますように、「私が命じる戒め」です。十戒を含めた律法全体です。それを守っていくことで命を得ると続きます。それはとても具体的なことで、そもそも、律法とは、神様の民とされた者が、神様とのまじわりに生きるために与えられたものでした。その際、大切なのは、律法の精神です。それは神様を愛し、人を愛し、神様に従っていくことです。そのように神様との関係の中にあり続けることが、実は命そのものです。そのようにして神様の命に生きる人を、実際の食べ物の点でも神様が生かして下さるというのが申命記の順番です。

聖書に従いとおすイエス

しかし、実際の所、このようにして、せっかく神さまが用意してくださった、命の言葉である律法は、イスラエルの民によって、忠実に生きられることはありませんでした。第二の誘惑の所で確認できると思いますけれども、イエスラエルの民は、荒れ野の40年において、何度も神様につぶやき、また、神様を試すことをしました。あれがない、これがない、本当に神様は、自分たちのことを生かす気があるのか、といったような疑いを口にしてしまいました。その結果、律法を正しく用いて、神様との良い関係にとどまることができませんでした。そしてこのような、いわゆる「つぶやき」は、わたしたちにしましても、身に覚えのあることかもしれません。どうにもならないように見える困りごとに出会った時、本当に神様は、自分を守っていて下さるのか、というような疑いの思いを持ってしまうかもしれないのです。

しかし、イエス様は、そのギリギリのところで、このところの場合ですと、もう空腹で仕方がない、なんでもいいから一口何か食べたい、という切羽詰まったところで、その最後の最後のところで、しかし、神様の言葉を優先するというのです。自分で勝手に奇跡を起こさない、というのです。それは全く言葉通りの意味で、神様に完全に服従するという宣言です。そしてこれが決定的なことです。この完全な服従こそ、神の子であるしるしだからです。

神の守りに信頼し従う

この徹底した服従は、続く二つの誘惑でも全く同じように貫かれています。二番目の誘惑は、それこそ神様が自分を守ってくださるかどうかを試してはどうか、という誘惑です。そこで悪魔は、わざわざ詩編91編の言葉を引いて、神様の守りの力を強調しています。聖書、聖書というのなら、聖書の言葉が実現するかどうか、試してみればいい、というのです。もちろん、これは聖書の曲解です。元々詩編91編は、深い神様の愛、人間への守りの意思があることをうたう歌でした。それは一言で言えば「主は私の避けどころ」という言葉になります。どんなときにも神様がこの私を守っていてくださるという告白です。悪魔はそれを逆手にとって、本当にそんな守りがあるのか、と問うのです。それに対してイエス様は、ここでも申命記（6：16）の言葉を引いて、この悪魔の言葉を斥けています。その申命記の言葉はこうでした。「あなたたちがマサにいたときにしたように、あなたたちの神、主を試してはならない。」マサとは地名です。出エジプトの折に、荒れ野でのどが渇いたイスラエルの民が、神様とモーセに言い逆らった有名な出来事の場面です。まさに、生きるか死ぬか、というその所で、イスラエルは神様に信頼できませんでした。しかし、イエス様はあえて、申命記のその出来事を語る言葉を引いて、イスラエルの民に代わって、神様を試さない、といういわばやり直しをしてくださっているのです。

お前が神の子なら－十字架との類比

それで、少々くどいと思われるかもしれませんが、この二つ目の誘惑で注目したいことがもう一つあります。それは悪魔の問いかけの言葉です。悪魔はこの二番目の誘惑でも「神の子なら」と言います。神の子なら神の子らしく力を使ったらどうか、といいます。実はマタイによる福音書には、ほぼ同じような意味でこの問いかけがなされているところがあります。それは、十字架の個所です。マタイ27章40節です。「「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」」。十字架のそばを通りかかった通行人が投げつけた皮肉です。しかし、イエス様は、この言葉もまた退けて、神様に従うほうを選ばれました。十字架の死に至るまで忠実でした。ですから、この二番目の誘惑は、十字架にまでつながっているともいえるのです。そこに至るまでイエス様が

忠実であってくださったから、私たちはイエス様と一緒に神の子となっていることができるのです。

神から授かる権威

　このような前後の関係性は、じつは、三番目の誘惑でも見つけることができます。三番目の誘惑では、悪魔がイエス様を高い山に連れて行って、世界中の国々を見せ、その支配を約束するというもので、その条件は、悪魔に跪くこと、すなわち、悪魔に従うことですから、全く話にならないので、イエス様は、「退けサタン」との命令と共に、もう一つの申命記の言葉をもってこの提案を一蹴しているのですが、しかし、実はイエス様が本物の権威を授けられる場面があります。それは、有名な大宣教命令の個所です。読まなくても大丈夫かもしれませんが、一応確認します。28章18節です。「イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」。いうまでもなく、完全に神様に忠実に歩まれたイエス様を神様は、全世界の支配者として立ててくださいました。悪魔の提案とは全く違った形で、死に至るまで神様に従うことによって、イエス様は、世界の国々をも治める王座に就かれました。

本当の神の子として

　そしてこのイエス様は、私たちに対して、世の終わりまで共にいると、言ってくださっています。私たちは、このようなイエス様の約束の中にあります。私たちはただイエス様をこのような方として、すなわち、神様の御心を完全に成し遂げて、その勝利によって得た祝福を私たちにも分けて下さる、そのような方として、信じることだけが求められています。今信じている私たち、そして、これから信仰をもとうとしている方は誰でも、イエス様によって、本当の神の子とされますし、これからも神の子として生きていくことができます。私たちはイエス様によって神の子になれるのです。

新しい歩みのために

　わたしたちが神の子にされている、あるいはこれからされる、このことが決定的に新しい出来事です。神様と関係なく生きるのではなく、むしろ、いつでもあの詩編91編の言葉のように、神様を避けどころとして生きられる、神様を当てにして生きることができる、そのような新しい生き方に私たちは入れられています。この事をかみしめつつ、新しい歩みをなしていきたいのです。

祈り

　父なる神さま、み名を賛美します。あなたは、ご自身の約束を御子において完成させて下さり、イエス様を通して私たちをあなたの子としてくださいますから感謝します。私たちはすでにあなたの守りの中に生かされていることを覚えます。どうぞ、この週もまた、このあなたの守りに信頼して、日々を重ねていくことができますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。